



志中の風

『自主』『友愛』『奉仕』

令和2年11月25日発行

「ウイズコロナ」で日常生活を平常に近づけるために

校長 長元 武彦

10月30日(金)全校生徒での文化祭を開催しました。2年生の構成劇「平和世又願イ」は11月11日(水)に写真入りで南日本新聞に掲載されるなど、各学年の舞台・展示発表は大きな反響が寄せられました。また、11月20日(金)には、1年生の1年校外学習(平和学習フィールドワーク)を鹿屋方面を中心に実施しました。さらには、12月15日(火)から17日(木)の日程で2年生の修学旅行を実施します。

しかしながら、報道等でご存知の通り新型コロナウイルス感染症の勢いは、収まるどころか第三波を迎え拡大傾向にあるところです。我慢を強いるかも知れませんが、引き続き学校では生徒に指導しながら教育活動を展開して参ります。しかし、中には生徒同士で身体接触をしようとする者がいます。相手が嫌がっていない場合でも、必要以上に友人に触らないよう指導しています。友人とのソーシャルディスタンスを確保し、密にならないように指導して参ります。中には、家庭での愛情が足りていない生徒がいるのかも知れません。家庭では我が子をぎゅっと抱きしめるなど、スキンシップを図ってください。しかし、それだけでは不十分です。各家庭でも、最大限の対策を講じてくださいますようお願いいたします。

さらには、学校や家庭以外における生徒たちの過ごし方も気になります。生徒たちが狭い場所に密集し長時間のゲームに興じることなどが無いよう見守る、または常時換気をする、遊びなどの自由時間であっても、外出時や会話をする際はマスクを必ず着用させる、等の防衛策を生徒自身で講じさせなければなりません。万全の策はないのかも知れませんが、可能な限り感染リスクを低減し、クラスター発生などが絶対に無いように努めましょう。そして、コロナ以前はできていた教育活動を、ウイズコロナであっても、実施可能な状況に工夫・改善しながらさせてあげられることを願っています。



1年3組合唱 We'll find the way



2年生構成劇「平和世又願イ」



3年生構成劇「Fight」

情報通信機器の家庭内ルールの設定について(ご協力の依頼)

スマホ・タブレット・ゲームなどの情報通信機器等の子どもたちに使用させるにあたり、各家庭で保護者と生徒で話し合いルールを設定することなどについての依頼文書を、11月10日付けで全家庭に配布しました。

これは、子どもたちが情報通信機器に振り回され、生活リズムの乱れや、人間関係の破壊、信頼の喪失につながるよう、私たちが大人としての責務があるからです。機器のフィルタリングやセキュリティの設定についても保護者の責任のもと、ご協力くださいますようお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症対策(学習保証)に向けた人的体制整備完了

標記の目的を達成するため、市教育委員会から本校に人的配置がなされています。

学習の遅れなどへの対応のため、生徒一人一人の学習定着度に応じたきめ細やかな指導の補助や補充指導、支援を行う学習指導員として鈴木泉先生が加わりました。10月に着任された田代圭三先生と併せて、学習支援員は二人体制となりました。

10月から勤務されているスクール・サポート・スタッフの永野洋子先生も含め、市教育委員会から本校へ、計3人の配置をいただいています。

「芸術鑑賞会」で本物に触れる！

11月5日(木)の5・6校時に、本校体育館で「芸術鑑賞会」が開催されました。これは、霧島市のみやまコンセールとの合同企画として、本校の全校生徒を対象として県内外の一流の演奏者を本校にお招きし、実施したものです。

ピアノと琴、フルート、コントラバス、ヴァイオリン、そしてソプラノ歌手の5人の演奏家にクラシック音楽を生演奏していただきました。

なお、当日の司会進行を務め、途中でピアノの演奏をしてくださった「みやまコンセール」の芸術文化専門員の西村彬氏は、本校の卒業生でもいらつやいます。クラシックの定番音楽から、生徒が身近に感じるジブリの楽曲等まで、アンコールを含め全12曲のあつという間のひとときでした。生徒たちは心が洗われたような時間を過ごすことができました。



生徒会引継式で後期生徒会へ！

11月9日(月)の1校時、本校体育館において「生徒会集会及び生徒会引継式」が行われました。

生徒会長は、3年生の田原遼太郎さんから2年生の若水凜さんへ引き継がれました。

今後、本校がよりよい学校となるように、新会長を中心に生徒会活動をより一層盛り上げてほしいと思います。生徒会活動は、生徒会本部や執行部だけではなく、本校に在籍する生徒全員で取り組むことが大切です。一人一人の係活動(一人一役)や日々のボランティア活動などの日常的な取組を、継続するとともに積極的に取り組んでいくことが大切です。そのことで、生徒全員の力を結集し、新たな伝統に創ることを期待しています。家庭や地域からの励ましも、よろしくお願いします。



本校で行われた「道德教育」研修会

平成27年度から、道德の時間が「特別の教科 道德」と位置づけられました。本校では、「考え、議論する道德」への転換を目指し、研究や実践を積み重ねて参りました。

11月6日(金)には、志布志市内の各小中学校の道德推進教師や市教育委員会の先生方を一堂に会し、鹿児島大学の迫田教授を指導助言者として「市道德教育推進教師等研修会」を開催しました。

本校では、研究・実践の一環として、ローテーション指導とTT指導を実施しています。ローテーション指導とは、指導者が週替わりで4クラスを指導することです。TT指導とは、担任だけでなく、副担任も加わり複数で指導することです。6日は、この様子を公開しました。鹿児島大学の迫田教授は、県内でもこのような先進的な実践はほとんどなく、素晴らしい取組であると、絶賛されていました。



「日新公いろは歌」に学ぶ

～『志アップ 子育て手帳』から～

戦国時代の鹿児島に、島津忠良(ただよし 1492～1568)という人物がいました。戦国武将として有名な島津四兄弟(義久、義弘、歳久、家久)の祖父にあたる人物で、「日新公(じっしんこう)」と呼ばれています。この忠良の母は、志布志出身の常盤です。実父や夫を亡くした常盤が、実子の忠良を連れて日吉の地で再婚し、気丈に忠良を教育したことは知られています。常盤の家庭教育が実を結び、忠良(日新公)は、文化や教育を大切にするとともに、近代大名島津氏の礎を築き、島津中興の祖と言われる存在となりました。

その日新公が、幼い頃から学んだことを「いろはにはほへと～」を頭文字にして47首にまとめたものが「日新公いろは歌」です。以下に、子育ての参考になりそうな2句を紹介します。

い：いにしえの 道を聞いても唱えても
わが行いに せずばかいなし

昔からの立派な教えを聞いたり、言ったりしても、自分で実行しなければ何の役にも立たない。

ろ：楼(ろう)の上も はにふの小屋も住む人の
心にこそは たかきいやしき

二階建ての立派な家に住む人も、みすばらしい小屋に住む人もいるが、住む家で人の価値は決まらない。心の中にこそ尊い、卑しいの区別がある。

【12月の主な行事予定】

※ 現時点での予定です。諸状況により変更があり得ますので、あらかじめご了解ください。

3日…PTA役員会・理事会

4日…授業参観・学級PTA(1・2年生)

9日…1年校内持久走・縄跳び大会

10日…2年校内持久走・縄跳び大会

11日…3年校内持久走・縄跳び大会

12日…家庭教育学級(調理・試食)

おやじの会(門松づくり)

14日…校内持久走・縄跳び大会(予備日)

15～17日…2年修学旅行

24日…終業式・大掃除